

2016年1月31日(日)朝10:10~
1月第5回同主日礼拝式説教

降誕節第6、自由交歓会等
日本アライアンス庄原基督教会

説教題：**真実な証人デメリオ**

聖書：ヨハネ 1章11～15節

＜口語訳＞

新約聖書383頁

ヨハネ 1章11～15節

＜新共同訳＞

新約聖書449頁

ヨハネ 1章11～15節

＜新改訳第3版＞

新約聖書473頁

ヨハネ 1章11～15節＜塚本訳＞

新約聖書772頁

主題：主イエス様から賜った聖霊の導き

によって主の弟子たちは、主の名による
神の罪からの救いを宣べ伝えたように、
私たちも、福音を伝えたい。

序論；

- ◇ **Ⅲヨハネ書**は、**I ヨハネ書**や**II ヨハネ書**と
違い、**ガイオ**への個人宛の書簡という形式を
とっています。
 - ◇併し、冒頭の「**長老から**」という書き出しや
4節の「**教会の集まり**」の表現から、**ヨハネ**に
による牧会的公的書簡として、**神の教会**で大事
にされてきました。
 - ◇ **Ⅲヨハネ書1章1～8節**は、**神の教会**で
用いられていた**ガイオ**へ「彼が、**神の真理**
に立って歩んでいる」ことを**喜び**、「旅人をもて
なしている善行」を「**継続**」してほしいとの**願い**
が認められおり、**9～10節**は、**教会の巡回
伝道者**を**旅人歓待**せず、追い出そうとした
デオテレペスΔιοτρέφηςへの**ヨハネ**の**注意
喚起**です。
 - ◇ **Ⅲヨハネ書1章11～15節**は、**11～12節**で
は、**デメテリオ**を見倣うよう勧め、**13～15節**
では、**ガイオ**への再会の希望と**ガイオ**の仲間
への挨拶が認められています。
- ⇒「**神の真理のための共働者、ガイオ**」への
書簡は、**注意喚起**から**模範者推薦**へ移行。

本論；

◇本日、ヨハネ書1章11～15節から主の使信に思い・心をとめます。

◆ヨハネ1章11～15節；ヨハネは、ガイオへ神の教会の模範者デメテリオを推薦しています。

◇11～12節；塚本訳◆デメテリオにならえ
「11 愛する者よ、あなたは(そのような)悪をまねず、善をまねよ。善を行う者は神から(出たの)であり、悪を行う者は神を見たことがないのである。

12 あのデメテリオは、すべての人からも、また真理そのものからも、(正しいことを)証しされている。わたし達もまた(そのことを)証しする。あなたはわたし達の証しが、真実であることを知っている。

◇13～15節；塚本訳◆結び

13 あなたに沢山書くべきことがあるが、インキとペンで書くことをしたくない。

14 (そちらに行き、)じきにあなたに会いたいと望んでいる。そして口と口で語ろう。

15 あなたに平安あらんことを。友人達からあなたによろしく。(そちらの)友人達にひとりひとり名を指して、よろしく」と、ヨハネは語ります。

◇11～12節 ;(デオテレペスΔιοτρέφης)のような者の「(そのような)悪」を、「あなたはまねず」、(デメテリオ)の「善をまねよ」、「善を行う者は神から(出たの)であり」、「悪を行う者は神を見たことがない」、「デメテリオは、すべての人からも、また真理そのものからも、(正しいことを)証しされている」、「わたし達もまた(そのことを)証しする」、「あなたはわたし達の証しが、真実であることを知っている」と語り、「デメテリオの善行者の生活」へ「見倣う」ことをヨハネは推薦しています。

⇒11節は、ヨハネがガイオへ注意喚起した「デオテレペスΔιοτρέφης」の「(そのような)悪」を強く意識しています。

⇒「あなたは(そのような)悪をまねず」を先ず文頭に置いて、次に、「善をまねよ」と、勧めているのです。

⇒「悪を行う者は神を見たことがない」のです。

⇒それに対して、「善を行う者は神から(出たの)である」と、ヨハネは語りますが、この「善」は、外見よりも内面を考えたことばです。

⇒ヨハネにとって、「善行 $\alpha\gamma\alpha\theta\sigma\pi\sigma\iota\sigma\alpha$ 」は、ユダヤ人の間では、マタイ6章で語られていますように、①施し(旅人接待を含みます)、②祈り、③断食の3つをすぐ連想させるものであることをよく知って、ガイオに語っているのです。

⇒12節では、「デメテリオは、すべての人からも、また真理そのものからも、(正しいことを)証しされている」と、「あのデメテリオ」と、ヨハネが語ることばには、「デメテリオ」への強い信頼・信任が、ヨハネにはあったことを推測させます。

⇒ヨハネは、「すべての人」とともに、「真理そのもの」からの「証し・証言・証明」を強調していますが、「真理」が擬人化されていると多くの人々が認めています。

⇒「真理」は、「神の変わりのない恵みヘセド」を表現するとともに、「神の約束への真実な心・思い」をも含んでいると理解されています。

- ⇒「神の真理そのものの証明」とは、ガイオと同様、「真理に立っていること、(すなわち)いかに真理を歩いている」かと、ヨハネが、ガイオの神信仰を知っていたように、神の真理に忠実に生きるデメテリオを神ご自身・主イエス・キリスト様ご自身が、「証明」しておられると語っていることなのです。
- ⇒ヨハネは、書簡にいては、「永遠のいのち」を「主イエス様ご自身」(I ヨハネ書1:2)とするように、12節の擬人化された「真理」も、同じ発想です。
- ⇒「あなたはわたし達の証しが、真実であること を知っている」(12)とも、ヨハネは語りますが、この「知っている」は、11節の「見た」と同様に、「完了時制の動詞」が用いられています。
- ⇒11節では、「デオテレペスΔιοτρέφης」が、12節では、「デメテリオ」が、それぞれ違った立場で、「神の真理」に向き合っているのです。
- ⇐「デオテレペスΔιοτρέφης」は、「神の恵み」を「見る」ことができず、「デメテリオ」は、「神の恵み」を知り、「神の真理と約束」に立った！

結論；

- ◇ **神**は、変わらない愛と思いやりの神です。
- ◇ **ヨハネ書**は、**I ヨハネ書**や**II ヨハネ書**と
違い、**ガイオ**への個人宛の書簡という形式を
とっています。
- ◇ 併し、冒頭の「**長老から**」という書き出しや
4節の「**教会の集まり**」の表現から、**ヨハネ**に
よる牧会的公的書簡として、**神の教会**で大事
にされてきました。
- ◇ **ヨハネ書1章1～8節**は、**神の教会**で
用いられていた**ガイオ**へ「彼が、**神の真理**
に立って歩んでいる」ことを**喜び**、「旅人をもて
なしている**善行**」を「**継続**」してほしいとの**願い**
が認められおり、**9～10節**は、**教会の巡回
伝道者**を**旅人歓待**せず、追い出そうとした
デオテレペス $\Deltaιοτρέφης$ への**ヨハネ**の**注意
喚起**です。
- ◇ **ヨハネ書1章11～15節**は、**11～12節**で
は、**デメテリオ**を**見倣う**よう勧め、**13～15節**
では、**ガイオ**への再会の希望と**ガイオ**の仲間
への挨拶が認められています。

- ⇒神信仰に忠実に生きたガイオは、「神の真理のため」、「神の真理に歩んだ兄弟たち(巡回伝道者たち)に、旅人接待」の「忠実な義務を果していた」のです。
- ⇒併し、「デオテレペス Διοτρέφης」は、長老(ヨハネ)の「神からの真理」、「神からの恵みへセド・約束への誠実さ・忠実さ」を示す神の教会の役目を理解せず、神の真理のことばを語る長老(ヨハネ)や巡回伝道者を罵り、旅人歓待を拒否し、その説教牧会奉仕を妨害し、教会から追放しようとしたのです。
- ⇒「デメテリオ」も、ガイオと同様の「神の真理」への敬虔さを保持する「神の教会の共働者」でした。
- ⇒神の教会が、ガイオやデメテリオのような神の真理に立って生きる模範者を与えられていることは、幸いです。
- ⇒庄原教会は、創立、あるいは宣教開始から120年、「神の真理に立って生きる模範者」を与えられてきました、バーンズ婦人宣教師に始まり、松山静師まで、福音宣教の「証し人」を得ています、これらの聖徒に学びたい。